

被ばく低減対策好事例集

場所		分類		番号	30-01-01
原子炉建屋内	RB	RB 1	① 時間		
タービン建屋内	TB		② 距離		
R ZONE	R		③ 遮へい		
Y ZONE	Y		④ 線源の除去		
G ZONE	G		⑤ 遠隔、ロボット化		
その他 ()	Z		⑥ 汚染拡大防止		
			⑦ その他		

内容 正確な被ばく線量算出を目的とした放射線管理情報収集方法

作業場所 各原子炉建屋等

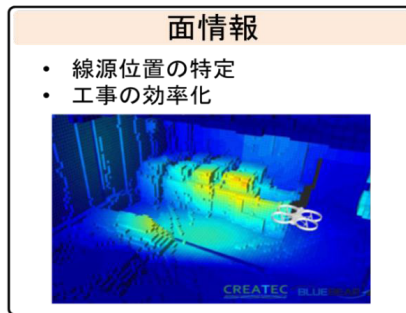
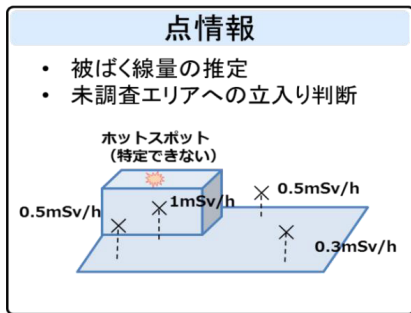
概略 被ばく低減対策を含む工事計画策定や除染などの工事成果を正しく評価するための放射線管理情報収集とその活用

評価 (定性・定量)	効果	対策前	対策後
		被ばく線量(mSv)	--
	人工数(人日)	--	--

事例詳細

対策前 被ばく予測をするにあたり、点情報(2次元)を用いて計画策定を行っていた。

対策内容 より正確な情報収集として、線源位置の特定や3次元情報などの活用が可能となってきた。



<RISER>

- ・非GPS環境下において飛行可能なドローン(詳細は、番号30-01-02参照)
- ・リアルタイムでの3次元復元図及び汚染マップの作成

<Gamma Imager>

- ・点群データ、ガンマ線源位置、線量率の取得
- ・360×180のパノラマ画像の作成



取得データを基に、N-Visageシステム※による解析によって
汚染マップ、空間の任意高さの線量率マップを作成



<Gamma Imager>

※英国セラフィールド(SL)社との技術協定に基づき、SL社から紹介を受けている技術